「脚下照顧」 —— 人みな師なり —— のコーナー

先日、イエローハット相談役の鍵山秀三郎先生にお会いしてきました。講演会場の控え室で1時間あまり、先生の掃除に対するお考えを聞かせていただき、自分にとってとても貴重な時間と体験でした。

鍵山先生が講演会で一番強調されていたことは、人間にとって一番大切な能力は「悪戦苦闘能力」である、ということです。誰の人生においても必ずいつかは到来するであろう逆境の時、逃げずに正面から取り組み、もがき苦しみながら身についていく問題解決能力。これを自分が獲得したという自覚が得られれば、何があっても物事に動じなくなるし第一、明日に希望を持って生きいきと生きていけるということをおっしゃっていました。

何度も倒産の危機に直面しながらも動じることなく、資金調達に奔走する朝も必ずご自分で自社のトイレ掃除をし、なおかつ付近の道路も清掃し、町内のゴミ置き場の仕分けをやりなおし、駅の側溝を掃除し、駐輪場の自転車の整理を行う。何十年も欠かさず実践されてきた方の実体験に基づく重みのあるお話でした。

最近読んだ曾野綾子さんの本にこう書いてありました。

「本を読まず、おかしな記号付きの短文で通信を楽しむケータイで人と付き合ったと思い、テレビゲームの架空世界で冒険をしたような気になる日本人はどんどん精神の衰弱で病的になり、今にそのか弱い精神の故に死ぬだろう。彼らは人生の中に歩み出し、それと格闘する実感も知らず、自分で鍛えることもしなかったからだ。貧困も病気も動乱も決して個人を育てる上でマイナスになるとばかりは限らないし、平和、豊かさ、いい環境が必ずしも個人にとって願わしいものともなりなりえない」

40度近い暑さの中、油と粉塵にまみれて機械と格闘している。狭いスペースで身をよじらしているので、動くたびに安全帯の腰袋が設備に引っかかり神経を逆なでする。苦しい。早くこの仕事を片付けてしまいたい。あせりが気持ちに拍車をかけ出すと、今度はあと30センチ手を伸ばせばそこにある手すりに安全帯のフックが届かない。あと少し手を伸ばせばヘルメットの上のゴーグルを顔に着用できるのにしない。しない…。確かにしないのではあるが、実はできないと言ったほうが実感がわく。私たちは何度もこの屈辱を経験している。何度も屈辱と後悔をくり返しながら次、もし苦しい現場があったら完璧にやってやろうと心に秘めている。そう、テクアのオヤジ達は日々鍛えられて磨かれている筈だ。

帰宅しても無口で今日の苦闘はおくびにも出さず、ビールを飲んでテレビを見ているだけのオヤジ。そんなオヤジもわが子に、妻に誇れるであろう瞬間をみんな経験しています。今回は父 みな師と言わせていただきたます。

【羽原　篤史】

PS. 年末にはSS会員の「ベスト作業者大賞」を発表させていただきます。究極の安全作業を目指してガンバッテ行きましょう！！